



学校通信

平成30年度 第7号
平成30年11月 1日
練馬区立開進第三小学校
校長 岡部 良美

『凡事徹底』

校長 岡部 良美

この言葉をお聞きになったことがありますか。「ぼんじてっい」と読みます。意味は、「なんでもなような当たり前のことを徹底的に行うこと、または、当たり前のことを極めて他人の追随を許さないこと」です。

この言葉が特に有名となったのは、今から5年前の夏の全国高校野球甲子園大会で優勝したチームの監督へのインタビューからでした。監督の座右の銘は『凡事徹底』。「今年のチームはこれまでのチームとどこが違うのか。」という質問に対して監督は次のように答えました。「毎朝、散歩しながら15分間のごみ拾いをしているんですけど、今年はそういうことをきちんとできるチーム。本物とはそういう平凡なことも、きちんとできるチームのことだと思うんです。」監督や選手に、強さの理由についてたずねても、「特別なことは何もしていない」と繰り返し答えていました。

さて、10月6日の運動会。開三小の伝統、6年生による42回目の鼓笛行進が行われました。多くの人に感動を与えました。

当日を迎えるまでの話です。6年生は4月から毎週月曜日の朝会終了後に、校舎に入る前に、校庭半周の行進練習をくり返していました。6年生全員が気持ちを一つにして、手の振り、足踏み、姿勢、前後の間隔、横一線の揃えなど、目標をもって、地道に真剣に練習していました。さらに、鼓笛行進を成功させようと、日々休み時間などを使い、自主的に練習を行っていました。小さな行動、努力の積み重ねです。私は、まさしくこれが『凡事徹底』だと実感しました。私の期待は膨らみました。

そして、運動会当日、6年生は「伝統である鼓笛行進で開三小の6年生のプライドを示す」ことを目標に、一人ひとりが自分の思いをもち、自分に任されたパートを今まで以上にしっかりと行い、友達を信じ、互いにサポートしながら、鼓笛行進を演じました。小さなこと、当たり前のことを、当たり前以上に行うことの大切さを6年生一人ひとりが示してくれました。6年生は本番を通して達成感をもち、1年生から5年生は6年生の演技のすばらしさに目を見張り、あこがれをもちました。保護者のみなさんをはじめ、見る人すべてに感動をプレゼントできた、開三小の6年生のすばらしさを示すことができたと思います。

「うちの子はまだ1年生で高学年になるのは先のことですが、6年生になったら鼓笛行進をやりたいと言って、家の中を大脱走のマーチを口ずさみながら歩き回っていました。」

(保護者の方からのアンケートより抜粋)

10月31日、校庭や裏庭のクリーン運動が行われました。その日の担当2・4・6年生が、落ち葉や小枝、ごみなどを一生懸命拾いました。10分間ほどの活動でしたが、終了後の子供たちの顔にすがすがしさ、満足感が表れていました。開三小では、「当たり前のことを、当たり前以上に行うこと、『凡事徹底』」を教育活動の中で重視して、子供一人ひとりにその大切さと成果を実感させていきます。